

令和 6 年度第 2 回千葉県慢性腎臓病（CKD）重症化予防対策部会 議事要旨（R6.12.12 開催）

議題(1)今年度の取組状況と今後の方向性

① 最近の CKD に関する動向について

・CKD 診療ガイド 2024 他、CKD に関する最近の動向及び千葉県における CKD 重症化予防対策の方向性について委員間での情報共有を行った。

② 令和 6 年度糖尿病性腎症・慢性腎臓病（CKD）重症化予防プログラム取組状況調査結果（速報値）について

・令和 6 年度の CKD 重症化予防（フロー図 4）に取り組む市町村数は、昨年度から 3 市町村増加し、35 市町村となった。受診勧奨数についても増加しており、市町村国保における取組は着実に増加してきている。今後、他の市町村へ展開していくために、CKD 対策協力医のリスト活用方法や、協力医を含めた地域のかかりつけ医に向けた CKD 対策の重要性の周知について委員より意見があった。

・市町村国保以外の被用者保険においては、協会けんぽで既に健診からの受診勧奨を開始しているが、今後、他の健保組合・共済組合へも取組を拡大していきたい。そこで、今年度は産業医の先生方向けの研修会において、事業所健診からの CKD 対象者の抽出・受診勧奨を実施していただけるようお願いし、今後健診からの CKD 早期発見に向けた受診勧奨に協力いただける企業を募る予定である。

③ 各団体における取組状況について

・新規委員の船橋市から市における CKD 対策の実施状況および現状の課題について、また、千葉県国民健康保険連合及び、後期高齢者医療広域連合からは今年度の保険者支援状況について報告があった。千葉県薬剤会にて実施している CKD 協力薬局事業は、令和 6 年 12 月時点で 93 施設の登録があり引き続き登録促進のための研修や周知を行っていくとの報告があった。

④ CKD 対策協力医について

・令和 6 年 11 月時点での CKD 対策協力医は 257 名であり、昨年度と比較して大きく変化はない。協力医不在の市町村もあるが、県民の受療行動を考えた際に、必ずしも在住市町村の医療機関を受診するわけではないことから、ある程度広いエリアで登録数を見ていく必要がある。②で出た意見と同様に地域のかかりつけ医に向けた周知方法について検討していくと共に、既登録の協力医の先生方に向けて「CKD 対策協力医通信」を定期的に作成し、千葉県の CKD 対策の現況や CKD 診療に関する最新情報の提供を引き続き行っていく。通信の第 2 号は令和 6 年 12 月に作成し、周知を行った。

⑤ CKD 重症化予防における栄養食事指導体制について

・千葉県栄養士会では、令和 5 年度から栄養ケア・ステーションを活用した外来・在宅食事指導を開始しており、実施状況の報告がされた。今後はかかりつけ医から管理栄養士に向けた指示票の簡便化及び標準化を進めていく。併せて、広く継続して展開するため、患者さんにも、かかりつけ医にもメリットがあると認識してもらえるような仕組みを検討していく予定である。

議題(2)その他

① 検査のワンチェックオーダー化に関する周知実施について

・千葉県医師会の承認・御協力をいただき、参考資料 2 にて医師会雑誌 1 月号に掲載いただき、全医師会員向けに周知を実施した。

② 健康ちば地域・職域連携推進協議会でのリーフレット配布について

・事務局より CKD に関する周知とリーフレット配布の実施について報告があった。

③ CKD 啓発リーフレットの改訂について

・CKD 診療ガイド 2024 の中で、国内 CKD 患者の推計が 2000 万人と記載されたことを受けて、これまで啓発リーフレット（「CKD を知っていますか？」「CKD って本当に怖い病気だって！」）に記載していた「8 人に 1 人」を「5 人に 1 人」に修正することについて承認された。令和 7 年度以降の増刷時に修正を行う。